

1年数学 学習プリント (No. 1)
 ※教科書P 14～P 15を見ながら () に適することばや数を入れましょう。

＜P 14を見ましょう＞

(Q 1) P 14に東京と旭川の気温を表した温度計の図があります。この図から、東京と旭川の気温を答えなさい。

東京・・・(6)℃ 旭川・・・(-6)℃

このように、旭川の気温 (-6)℃は (マイナス) 6℃とよみ、0℃より6℃より (低い) 温度を示します。

＜P 15を見ましょう＞

-4、-2.1、-1のように、0より (小さい) 数を (負) の数という。

負の数に対して、6、4、0.5のように0より (大きい) 数を (正) という。

負の数は、“-”をつけて表し、正の数は“+”をつけて表します。

負の数 -5 → (マイナス) 5と読む → “-”を (負) の符号

正の数 +8 → (プラス) 8と読む → “+”を (正) の符号

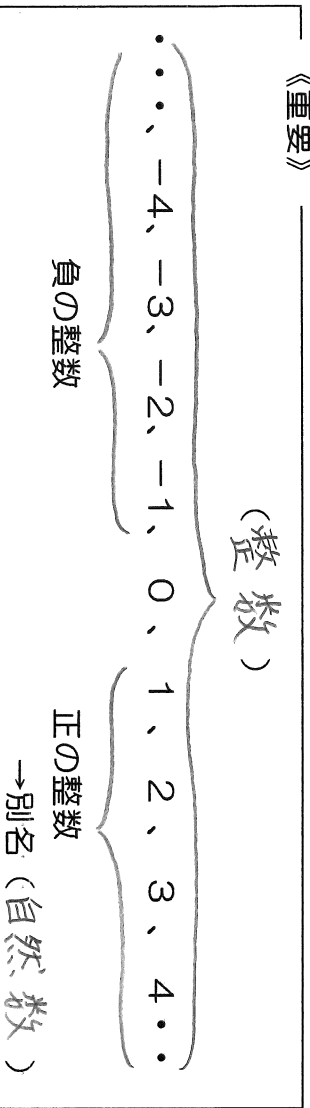
(Q 2) 次の数を、正の符号、負の符号をつけて表しなさい。

① 0より13小さい数→ (-13)

② 0より7大きい数→ (+7)

③ 0より2小さい数→ (-2)

《重要》



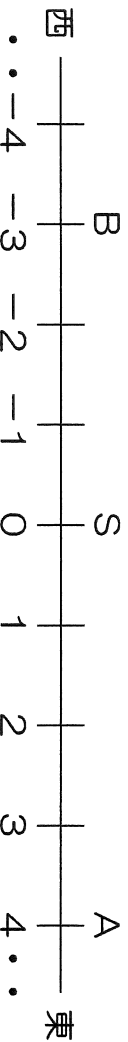
※教科書P 17～P 1を見ながら（ ）に適することはや数を入れましょう。

＜P 17を見ましょう＞

山の高さや海の深さ、収入と支出のようおまに、たがいに（反対）の性質をもつと考えられる量は、（正の数）、（負の数）を使って表すことができます。

（Q3）5000円の収入を、+5000円で表すとき、4000円の支出は（-400）円で表すことができます。

（Q4）ある地点（S）から4 km 東の地点（A）を、+4 km で表すとき、ある地点（S）から3 km 西の地点（B）は、（-3）km と表すことができます。



（Q5）10000円の利益を+10000円で表すとき、5000円の損失はどう表しますか。

5000円の損失→（-500）円

＜P 18を見ましょう＞

反対の性質をもつ量は、例えば、「多い」、「少ない」のうおに2つの言葉を使って表しますが、負の数を使うと、その一方の言葉だけで表す（言い換える）ことができます。

（例） 5個少ない →（言い換える）→ -5個多い
6 cm 短い →（言い換える）→ -6 cm 長い

（Q6）〔 〕ないの言葉を使って、次のことを表しなさい。

①7個多い〔少ない〕→（-7個）少ない

②3 kg 重い〔軽い〕→（-3kg）軽い

③100円たりない〔余る〕→（-100円）余る

④13 cm 短い〔長い〕→（-13cm）長い

※教科書P19～P22を見ながら () に適することばや数を入れましょう。

＜P19を見ましょう＞

《重要》

絶対値とは、正の数や負の数から、符号を取り除いた数のことをいう。
“－7”の絶対値は、“－”の符号を取り除くので、“7”である。

では、“＋6”の絶対値は、(6) である。また、“－3”の絶対値は
(3) である。

(Q1) 次の数の絶対値を答えなさい。

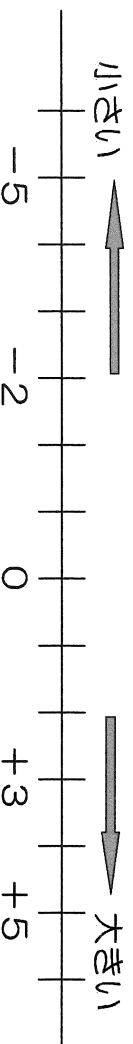
① $-5 \rightarrow (5)$ ② $+9 \rightarrow (9)$

③ $+4.6 \rightarrow (4.6)$ ④ $+0.3 \rightarrow (0.3)$

＜P20を見ましょう＞

《数の大小》

数を数直線上に表すと、これらの数は、すべて、大きさの順に並び、
右のほうにある数ほど(大きく)なる。



(Q2) 次の2つのうち、大きい数を答えなさい。また、絶対値が大きい数を答えなさい。

① -5 と $+3 \rightarrow$ 大きい数 ($+3$)、絶対値が大きい数 (-5)

② -2 と $-7 \rightarrow$ 大きい数 (-2)、絶対値が大きい数 (-7)

《重要》

正の数は(負の数)より大きい。

正の数は0より(大きく)、絶対値が(大きい)ほど大きい。

負の数は0より(小さく)、絶対値が大きいほど(小さい)。

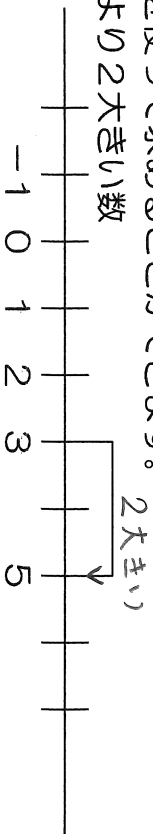
＜P21を見ましょう＞

※ “+3” という正の数は、符号 “+” を書かないで表すことができます。

→ 小学校で使っていた数は、“+” の符号のついていた数です。

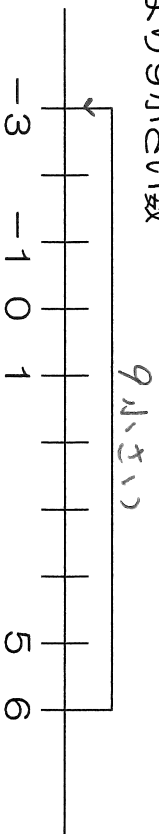
数の大小と数直線上の位置関係を使うと、ある数より大きい和或小さい数を、数直線を使って求めることができます。

(例1) 3より2大きい数



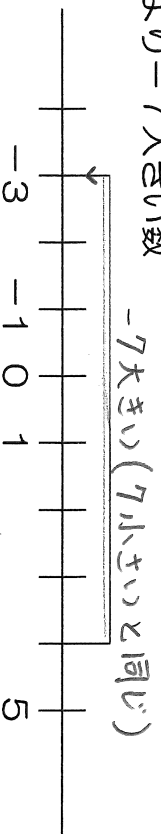
→ 3より2大きい数は、数直線で3より右に2進んだ点として表され、(5) になる

(例2) 6より9小さい数



→ 6より9小さい数は、数直線で6より左に9進んだ点として表され、(-3) になる

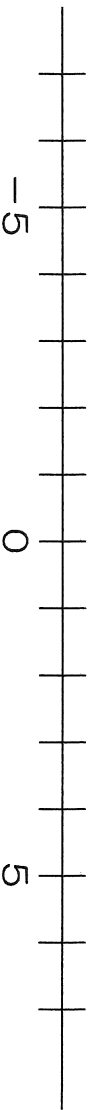
(例3) 4より-7大きい数



→ 4より-7大きい数は、数直線で4より7小さい数である。

この数は、数直線で5より左に7進んだ点として表され、(-3) になる

(Q3) 下の数直線を使って、①～③の数を答えなさい。



① -6より8大きい数 → (2) “+” の符号は

② -2より3小さい数 → (1) 書かなくてよい

③ 3より-6大きい数 → (-3)

④ 3より-2小さい数 → (5)

※教科書P23～Pを見ながら()に適することはや数を入れましょう。

(Q) $(-4) + 6$ や $5 + (-6)$ は、どんな数を求める計算かな？

<P24を見ましょう>

正の数に正の数をたす計算、例えば、

$2 + 5$ は、2より5大きい数を求める計算

を表しています。同じように考えると、例えば、

$(-5) + 7$ は、-5より(7)大きい数を求める計算

になります。したがって、

$$(-5) + 7 = (2)$$

となります。

これは全て“計算”なので大きい数を求める

(Q1) 次の計算をしなさい。

① $(+3) + (+4) = +7$ 、

② $(+6) + (+2) = +8$ 、

$(+3)$ より $(+4)$ 大きい
7、

$(+6)$ より $(+2)$ 大きい
または8、

③ $(-3) + (-4) = -7$ 、

④ $(-6) + (-2) = -8$ 、

(-3) より (-4) 大きい
→ (-3) より4 小さい

(-6) より (-2) 大きい
→ (-6) より2 小さい

⑤ $(+3) + (-4) = -1$ 、

⑥ $(+6) + (-2) = 4$ 、

$(+3)$ より (-4) 大きい
→ $(+3)$ より4 小さい

$(+6)$ より (-2) 大きい
→ $(+6)$ より2 小さい

⑦ $(-3) + (-4) = -7$ 、

⑧ $(-6) + (+2) = -4$ 、

(-3) より (-4) 大きい
→ (-3) より4 小さい

(-6) より $(+2)$ 大きい

《重要》

- ①～④でわかったこと
- ・正の数どうしの和は、いつも（正）の数
 - ・負の数どうしの和は、いつも（負）の数 になる。

《重要》

⑤～⑧でわかったこと

- ・符号の違う数の和の符号は、絶対値の大きい数の（符号）が
答えの符号になる。
- ・符号の違う数の和は、絶対値の大きい数から小さい数をひいた
（差）が答えの数になる。

(Q2) 次の計算をなさい。 ← () の中の数の絶対値を利用する

① $(+21) + (-26)$

$$\begin{array}{r} 21 \\ \swarrow \\ 26 \end{array}$$

符号がちがう
 $-(26-21)=-5$

② $(-35) + (+38)$

$$\begin{array}{r} 35 \\ \swarrow \\ 38 \end{array}$$

符号がちがう $+(38-35)=+3$

③ $(-25) + (+22)$

$$\begin{array}{r} 25 \\ \swarrow \\ 22 \end{array}$$

符号がちがう $-(25-22)=-3$

④ $(-27) + (-34)$

$$\begin{array}{r} 27 \\ \swarrow \\ 34 \end{array}$$

符号がおなじ $-(27+34)=-61$

⑤ $(-12) + (-12)$

$$\begin{array}{r} 12 \\ \swarrow \\ 12 \end{array}$$

符号がおなじ
 $-(12+12)=-24$

⑥ $(-49) + (+49)$

$$\begin{array}{r} 49 \\ \swarrow \\ 49 \end{array}$$

符号がちがう (49-49)=0
絶対値が同じなので符号はつけない

(Q) $(+9) - (+6)$ は、どんな数を求める計算かな？

$(+9) - (+6)$ は、+9より() 小さい数を求める計算で
+9より(-6) 大きい数を求める計算と
同じである。

$$(+9) - (+6) = (+9) + (-6)$$

《重要》

ひき算は、ひく数の符号を

- ・“+”を“-”に変えて、たし算に変えて計算する。
- ・“=”を“+”に変えて、たし算に変えて計算する。

(Q3) 次の計算をしなさい。 ← ひき算はたし算に変える

$$\textcircled{1} (+6) - (-2)$$

$$\textcircled{2} (-9) - (+4)$$

$$= (+6) + (+2)$$

$$= (-9) + (-4)$$

$$= 8,,$$

$$= -13,,$$

$$\textcircled{3} 0 - (-7)$$

$$\textcircled{4} (-5) - (-5)$$

$$= 0 + (+7)$$

$$= (-5) + (+5)$$

$$= 7,,$$

$$= 0,,$$

$$\textcircled{5} (-27) - (-12)$$

$$\textcircled{6} (-17) - (+54)$$

$$= (-27) + (+12)$$

$$= (-17) + (-54)$$

$$= -15,,$$

$$= -71,,$$

$$\textcircled{7} (+34) - (-34)$$

$$\textcircled{8} (-34) - (+34)$$

$$= (+34) + (+34)$$

$$= (-34) + (-34)$$

$$= 68,,$$

$$= -68,,$$

(Q) $(+7) - (+8) + (-5) - (-9)$ は、どうすればいいかな？

$(+7) - (+8) + (-5) - (-9)$ は、たし算とひき算が混じっているので、ひき算をたし算に直すことができる。



$$(+7) - (+8) + (-5) - (-9)$$

$$= (+7) + (-8) + (-5) + (+9)$$

↓ 同じ符号の数を集める《交換法則》

$$\begin{aligned}
 &= (+7) + (+9) + (-8) + (-5) \\
 &= (+16) + (-13) \\
 &= (+3)
 \end{aligned}$$

(Q3) 次の計算をしなさい。 ← たし算とひき算があるので

$$\textcircled{1} (+2) - (-9) + (-5)$$

全てたし算に変える

$$= (+2) + \overset{\downarrow}{(+9)} + (-5)$$

同じ符号

$$= (+11) + (-5)$$

$$= 6$$

$$\textcircled{2} (-4) + (+5) - (-6) + (-7)$$

$$= (-4) + (+5) + \overset{\downarrow}{(+6)} + (-7)$$

同じ符号の数を変える

$$= (-4) + (-7) + (+5) + (+6)$$

$$= (-11) + (+11)$$

$$= 0$$

$$\textcircled{3} (-24) - (-15) + (-35) - (+24) + (-7)$$

$$= (-24) + \overset{\downarrow}{(+15)} + (-35) + \overset{\downarrow}{(-24)} + (-7)$$

$$= (-24) + (-35) + (-24) + (-7) + (+15)$$

$$= -75$$